

河童物語

平成9年6月24日～7月25日

河童の民話や伝説は、北海道から沖縄まで日本列島いたるところに残っています。子供のような形をして、頭に水の入った皿をのせ、胡瓜や相撲を好み、時には人や馬を水中に引き込もうと悪戯をする等々、こうした日本人に親しまれる河童のキャラクターは、絵画や小説の世界にも頻繁に登場します。妖怪の一種とも水の神とも考えられ、また実在の動物であるかのように信じる者も少なくない…、河童とは、果たして何者なのでしょう。そして現在、河童たちの消息は…？

今回の展示は、そんな河童の不思議に迫ってみました。

展示資料一覧

<>内は当館請求記号

[河童の研究]

1. 河童の世界 新版

石川純一郎著

<GD33-556>

東京 時事通信社 1985.6 307, 5p 19cm

河童はどこから来たのか。起源については人形化誕生説と渡來說、牛頭天王の御子神説とがある。人形化誕生説は建築彫刻の名人左甚五郎にまつわるもので、藁人形等が生命を吹き込まれて社寺建立を助けた後、川に捨てられ河童になったという。渡來說は唐天竺の黄河に住んでいた河童が海を渡り、日本の九州に住みついたというもの。牛頭天王とは祇園祭で知られる疫神で、水辺との関わりも深い。

2. 九州河童紀行

九州河童の会編

<GD38-E65>

福岡 葦書房 1993.4 277p 19cm

近世から続く河童伝説の息の長さは、日本の各地方における水神信仰と結びついてきたためであ

ろうか。その河童の正体については、亀や川獺(かわうそ)、または鳥であるとする地方の伝承もある。

3. いわて河童物語

金野静一著

<KG745-157>

盛岡 熊谷印刷出版部 1982.12 188p 19cm

河童の風体として、頭頂の皿、背中の甲羅、赤い顔、まん丸い目、鼻の穴一つ、耳無し、水掻きのついた手足、等々の特徴があげられている。

4. 日本のかっぱ 水と神のフォークロア

監修：河童連邦共和国

<GD38-E54>

東京 桐原書店 1991.7 175p 30cm

日本人の心に根付いた河童のイメージ。

5. 定本柳田国男集 第27巻

東京 筑摩書房 1982.12 452p 23cm 愛蔵版

<GD1-252>

「河童駒引」(大正3年刊『山島民譚集』所収)

河童は全国に様々な別名または方言を持っている。柳田によれば、「カツパ」とは東京語であり比較的広く用いられているが、他に「ガタロ」「カワランベ」「ヒヤウスへ」「スキジン」「ガメ」「カハツソウ」「エンコウ」「ミヅシ」「コマヒキ」など、実に多様である。なお、河童とは何者かという問いに対しては、馬の守り神としての猿ではないかという論が展開されている。

6. 古代研究 第1部 民俗学篇 第2

折口信夫著

<381.1-O764k>

東京 大岡山書店 1930 図版 23cm (再版 1930初版)

「河童の話」(昭和4年)

河童と人との結びつきは深い。人畜を水に引き込もうとして失敗し、腕を抜かれた河童が許しを乞い、その謝礼に接骨の方法や妙薬を授けたりする。また、村の人々に害を加えないという誓文を立て、取られた腕を返してもらうという話も多く残っている。

—江戸時代の河童の記録—

7. 日本山海名物図会

平瀬徹斎作 長谷川光信画

<DC48-4>

東京 名著刊行会 1969 187p 22cm

宝暦4年(1754年)刊本の複製 解説(樋口秀雄)

京の西陣織、江戸の浅草海苔、仙台の馬市などと並んで、豊後の河太郎が名物として紹介されて

いる。本文に「形五六歳の小児のごとく、遍身に毛ありて猿に似て眼するどし。常に浜辺へ出て相撲を取るなり。人を恐るることなし。されども、間ちかくよれば水中に飛び入るなり。…河太郎、豊後国に多し。その外、九州の中所々に有り。関東に多し。関東にては河童と云ふなり」とある。

8. 水虎説

未刊・稀覯書叢刊 第1輯 第3 <304-247>

壬生書院編集部編

東京 壬生書院編集部 昭14 23cm 和装 謄写版

左頁(33頁左)の図は享和元年(1716年)6月に「水戸浦より上り候河童」。東浜の権平次なる者が浦山金平なる者にあてて、捕らえた時の状況を「丈三尺五寸餘。重サ拾二貫目有之候…」と報告している。原本は当館所蔵の『水虎説』(写本)である。

—現代に息づく河童—

9. 現代民話考 1 河童・天狗・神かくし

松谷みよ子〔著〕 <KG745-189>

東京 立風書房 1985.8 434p 20cm

福井県大野郡和泉村には、九頭竜川のカドミウム汚染を村人に知らせた河童の話がある。本書は全国から明治以降の体験談等を集め、現代に生まれた民話としてまとめたもので、その第一章が河童である。

10. 河童を見た人びと

高橋貞子著 <GD38-G17>

東京 岩田書院 1996.6 211p 19cm

岩手県岩泉地方に語り継がれる河童ばなしの数々。平成に入ってから河童を見た人の証言も含まれている。

[描かれた河童]

小説、詩、絵画、漫画等に表現された河童たちをご紹介します。

11. 鏡花全集 卷23

泉鏡花著 <KH231-40>

東京 岩波書店 1975 814p 20cm

「貝の穴に河童の居る事」(昭和6年)

赤沼の河童「三郎」は、海辺で出会った芸人三人組から逃れて馬蛤貝(まてがい)の穴に隠れるが、穴をステッキで突かれて怪我をする。そこでお社の姫神様に仕返しを願うが…。

12. 河童

芥川龍之介著 <KH43-8>

東京 東出版 1977.7 112p 図 肖像 23cm

芥川龍之介歿後五十年記念出版 限定版

昭和2年、雑誌「改造」に発表された。河童の世界を訪れた人間の手記という形で書かれた風刺小説。左頁(24頁左)は芥川が好んで描いた河童図の一つ。7月24日の芥川の命日は「河童忌」と呼ばれる。

13. 河童曼陀羅

火野葦平著 <913.6-H461k7>

東京 四季社 1957 574p(図版16p共) 図版 27cm

限定版 著者署名本 図版(はり込)2枚

「私はカップパ年(の生まれ)」と言う火野葦平が、「石と釘」(昭和15年)以来書き続けた小説・詩などの河童作品43篇を集めたもの。カラー図版の河童絵は著者自身による。本文中の挿画は中川一政ほか。

14. 大河童 宗左近詩集

宗左近著 <KH561-18>

東京 弥生書房 1969 174p 20cm

詩人・美術評論家である宗左近による河童詩集。

15. 河童百図

小川芋銭著 <721.9-O283k>

熱海 竜星閣 1956 図版109p(解説共) 16×22cm

日本画家小川芋銭は、茨城県牛久村に住み、農作業のかたわら湖沼の風物や河童を描いた。新聞や雑誌の挿画や漫画でも知られている。右図は「胡瓜畑の親子」、左図は「丸木舟に遊ぶカップパ」。

16. 俳画の描き方

小川芋銭著 <657-196>

東京 崇文堂出版部 昭和9 70p 19cm

17. かつぱ川太郎

清水崑著 <726.1-Si373k>

東京 朝日新聞社 1952 60p 19×18cm

18. かつぱ天国 第1集

清水崑著

<726.1-Si373k2>

東京 東峰書房 1955 112p 16×22cm

漫画家清水崑の河童は、昭和24年、火野葦平の短篇小説集『河童』（早川書房刊）の挿画を依頼されたことに始まる。『かつぱ川太郎』は子供新聞「小学生朝日」に、『かつぱ天国』は雑誌「週刊朝日」に連載された。

19. 水木しげるの妖怪事典

水木しげる著

<GD38-43>

東京 東京堂出版 1981.9 210p 16×22cm

漫画家水木しげるは、紙芝居、貸本漫画といった初期の作品から妖怪を描いてきた。代表作として『河童の三平』『ゲゲゲの鬼太郎』など。

[日本全国河童巡り]

日本各地の河童の昔話のなかで、特にその地方の方言で書かれているものをご紹介します。

—青森県 河童、水虎様(すいこさま)—

20. ほらと河童と雪女 津軽＝車力の昔話

北沢得太郎, 鈴木喜代春編

<KH22-409>

東京 未来社 1979.1 296p 20cm (日本の昔話 16)

西津軽郡車力村の昔話。中国の伝説の「水虎」はここでは水難除けの神として祀られ、「シッコサマ」「オシッコサマ」とも呼ばれる。

—秋田県 河童—

21. 秋田むがしこ

今村義孝編

<388.124-I333a>

東京 未来社 1959 375p 図版 地図 19cm (日本の昔話 第9)

仙北郡太田村の昔話。

—岩手県 カッパ—

22. 北上川の伝説

北上 北上市立博物館 1987.3 32p 21×22cm

<KH22-E30>

(北上川流域の自然と文化シリーズ 9)

北上市二子町の昔話。岩手県は遠野を中心として、多くの昔話が伝えられている。

—福島県 河童—

23. 河童火やろう 福島昔話

石川純一郎編 監修者：臼田甚五郎 <388.126-I641k>

東京 東出版 1968 274p 図版 19cm

南会津郡檜枝岐村の昔話。

—茨城県 ねね子河童—

24. 茨城の民話 第2集

日向野徳久編 <KH22-310>

東京 未来社 1978.12 195p 22cm (日本の民話 72)

北相馬郡の昔話。「ねね子」は安政2年(1855年)の『利根川図志』にも登場する。

—東京都 河童—

25. 怪異東京戸板がえし 華やかな街の裏にひそむ妖怪たち

田中聡著 監修：荒俣宏 <GD38-E29>

東京 評伝社 1989.10 238p 19cm

麴町や九段のお堀といった、江戸の人工的な水辺でも河童は活躍した。

—三重県 シリコボシ、カワコボシ—

26. 志摩町のむかしばなし 郷土に伝わる三十二話

志摩町教育委員会編 <KH22-E122>

志摩町(三重県) 志摩町教育委員会 1989.3 123p 22cm

「コボシ」は「小法子」で、「シリコボシ」は「尻子玉を抜く小法子」の意。近畿地方には九州と並んで河童の異名が多い。他に「ガタロ」「ゴウラ」「カワコゾウ」「シリヌキ」など。

—和歌山県 カシャンボ、ゴランボ、ガランボウ—

27. 熊野・本宮の民話

和歌山県民話の会編 <KH22-535>

御坊 和歌山県民話の会 1981.3 202p 26cm (きのくに民話叢書 1)

東牟婁郡本宮町の昔話。

—島根県 えんこう—

28. さくらえの民話 島根県邑智郡桜江町民話集 2

桜江町〔ほか〕編 桜江町(島根県) 桜江町 1992.3 125,5p 26cm

共同刊行：桜江町老人クラブ連合会ほか <KH22-E238>

